

平成20年度第2回山形県立博物館協議会 記録

日 時 平成21年2月6日(金)
13:30～15:30
場 所 山形県立博物館講堂

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 報 告

(1) 平成20年度主要事業の進捗状況について

【安達委員】出張博物館教室について興味深く伺った。このような事業はこれからの方向性を示すものと考ええる。大変でしょうが、もっと盛んになることを期待したい。

【高野副館長】出張博物館については、HPで宣伝しているほか、このたびの博物館ニュースでも取り上げて紹介している。

【酒井委員】県立博物館は、たくさんの行事を実施しており、目一杯活動していると思う。ただ、予算が伴うのか、また、友の会は博物館の応援になっているのか。

【阿部館長】学芸員が一部門一人なので、大変であり、一人で二役・三役をこなさなければならぬので、忙しい。なお、近場への旅費が下がったので動きやすくなった。友の会は、主催の講演会を実施しているほか、企画展や特別展の図録出版、友の会会報の発行など活発に活動しており、博物館にとっても良い刺激になっている。

【加藤課長】今回の経済危機は未曾有のものであり、厳しい税収の減少が見込まれるが、致命的にならないように予算の確保に頑張りたい。

【丸山会長】出張博物館については、HPでの宣伝だけでは心もとないのではないか。学校教育の中に取り入れてもらうように話をもっていけないものか。学校も忙しいのだろうが。

【板坂委員】6年生のクラスであるが、最上川をテーマにして、県庁から来てもらって授業を行った。非常に役立った。博物館ももっとPRすべきだろう。

【吉田委員】インターンシップに係る受け入れについてであるが、中学生だけのよう

だが、小学生の場合は受け入れないのか。

【高野副館長】基本的には受け入れる。キャリア教育（職場体験）の一環として受け入れている。

【丸山会長】県内の各館の受け入れ状況はどうなっているのか。

【酒井委員】致道博物館では、以前、高校生を受け入れたことがあるが、最近は何事もない。

【加藤課長】県内の受け入れ状況について、把握していない。

4 協議事項

(1) 平成21年度の運営方針・事業計画について

【吉田委員】県立博物館の新館構想、リニューアル構想、いずれも財政難ということで途絶した。今後どうなるのか。県の財政はこれからも厳しい状況が続くだろうが、我々協議委員や関係者は構想自体を途絶することのないように、長期的には持っていなければならない。また、資料保管に関わるくん蒸などについての予算措置は当初予算で措置すべきでないか。

【瀬野副館長】くん蒸については、当初予算で確保されているが、金額的制約から収蔵庫と展示室を1年おきに実施している状況である。今年度は、展示室のくん蒸の年であるが、動物収蔵庫の昆虫標本の劣化に関わって、動物収蔵庫のくん蒸と除湿機の設置経費について、9月補正予算で対応したものである。

【三浦委員】資料管理については、くん蒸よりもIPMが主流になっている。それには、害虫の監視や清掃など普段からの小さな取りくみの積み重ねが大切だ。収蔵庫内の温・湿度を一定に保つのは理想であるが、多額の経費もかかり難しい問題だ。収蔵庫の温・湿度変化は、外気の変化に沿うのは止むを得ないが、できる範囲で、急激な変化をさけて緩やかなものにもっていくようにすれば良い。

【大江委員】高等学校の立場からすると、高校生を博物館活動に巻き込むような取り組みが博物館側にも必要ではないか。先般の県高等学校総合文化祭では、致道博物館の協力を得てイベントを成功できた。両者の連携がいったんつくられれば、その後の事業もうまく継続していくものだ。そのために、年間行事予定がつけられる前の時点からの調整が必要だ。

【安部委員】昨年からはまった「ミュージアム週間」は今後どうなるのか。また、今年度からの「やまがたアートライン事業」について、来年度予算の見通しはどうなっているのか。

- 【阿部館長】「ミュージアム週間」は、県博物館連絡協議会の主催事業であり、今後も継続していく。「やまがたアートライン事業」は、県民文化課の主管であるが、来年度は2年目の継続事業とし予算要求は行っていると聞いている。
- 【三浦委員】新しくつくった共通パンフレット「やまがたのミュージアム」を、もっと広く配布してもらいたい。県立博物館の存在感は、地元の人にも薄いようだ。
- 【野口委員】「人とのつながり」での情報が大事だ。博物館側も主管課や他部局担当課等との話し合いの場を積極的に設けて、予算措置に結びつくような事業評価を訴求すべきだ。
- 【安達委員】齋藤茂吉記念館などでは、観光バスやタクシーの運転手などを無料入館にして館の理解とPRに努めているが、県立博物館ではどうなのか。
- 【阿部館長】タクシー会社の研修などで入館する場合は、免除にしている。
- 【安達委員】これまでも、何度もいっているが、階段やトイレなどバリアフリーに対する館の取り組みがまだ不十分だ。
- 【丸山委員】ユニバーサルデザインについての問題は、緊急に取り組むべき事柄だ。館長が直接的に要求する機会はないのか。
- 【阿部館長】なかなか予算がつかないのが実態だ。施設長会議があるが、予算だけに絞ったものではない。
- 【加藤課長】設備の補修・改修等は緊急性の高いものから優先順位をつけて予算措置を講じている。要求してもらえない。年度末調整で実施できる場合もある。
- 【安部委員】平成17年度に新しい博物館という夢は忘れていない。もう過ぎてしまったが、決して夢でなく、協議会委員が展望を持っていることを伝えてほしい。また、博物館友の会設立の必要を10年前から説いていたが、今年度ようやく発足したのはうれしいことだ。
- 【加藤課長】博物館の移転整備については、まったく白紙に戻したわけではない。県の長期計画のなかで構想を示していくつもりだ。
- 【丸山委員】大学での学芸員の単位取得が大きく変わりそうである。館側の今後の対応についての見通しはどうなのか。
- 【高野副館長】県立博物館では、毎年学芸員実習の学生を受け入れているが、これ以上受入人数を増やすのは困難である。

(閉会)